

第64回日本小児保健協会学術集会 若手奨励賞受賞演題

教室場面の動画を用いた視線解析による自閉症
スペクトラム児のスクリーニングの有用性樋口 隆弘¹⁾, 石崎 優子^{1, 2)}, 柳本 嘉時¹⁾, 金子 一成^{1, 2)}

〔要旨〕

背景：自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorders：ASD）児は、早期にその障害を発見し療育を開始することでコミュニケーションスキルが向上する。しかし、ASDの診断においては主観的検査法が主であるため、客観的検査法の確立が課題である。

目的：ASD児の客観的評価と学校教室の授業場面での支援に視線解析が有用か否かを明らかにする。

対象と方法：2～15歳のASD児26名（男児19名，女児7名；平均年齢8.6歳）と定型発達（Typical Development：TD）児27名（男児14名，女児13名；平均年齢8.2歳）を対象として，小学校の授業場面の動画を視覚刺激とした視線解析を行った。具体的には，視線解析装置・i View X（SMI）を用い，教師の「顔」や「壁」などへの視線滞留時間をASD児とTD児とで比較検討した。

結果：ASD児は教師の視線や指さした先の対象物を見る時間が短く，壁を見る時間が長かった。また，教師の視線や指さしを参照して指さした先の対象物を見る回数が少ないことが明らかになった。

考察：視線滞留時間によってASD児とTD児を鑑別できる可能性があり，授業場面の支援に応用できる可能性も示唆された。

本演題の内容は，PLOS ONE 誌（<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0175912>）（2017年5月4日発行）に原著論文として掲載されました。

Key words：自閉症スペクトラム（Autism Spectrum Disorders：ASD），視線解析，学校教室の授業場面，スクリーニング

1) 関西医科大学小児科学講座

2) 関西医科大学地域小児医療支援（名張市寄附）講座